

待兼山俳句会

第六百九十回

世話人

山田安廣・鈴木輝子・寺岡 翠・根来眞知子
東中 乱・向井邦夫・森 茉衣

令和六年七月二十二日（月）

会場 大阪倶楽部 会議室 締切 午後二時

出席者 瀬戸幹三・山戸暁子・上田恵子・小出堯子・鈴木輝子・鈴木兵十郎・寺岡 翠・東中 乱

向井邦夫・森 茉衣・山田安廣

投句者 碓井遊子・西條かな子・鶴岡言成・中嶋朱美・中村和江・西川盛雄・根来眞知子

東野太美子・平井瑛三・ 出席者十一名＋投句者九名 計二十名

兼題 水遊・日盛（幹三） 滝・草いきれ（暁子） 当季雑詠 通じて八句

次回 例会 令和六年八月十九日（第三月曜日）会場 大阪倶楽部会議室 締切 午後二時

兼題 カンナ・蝸（幹三） 南瓜・茗荷の花（暁子） その他当季雑詠

尚、九月の句会は第三月曜日と第四月曜日が休日のため第二月曜日の九月九日になります。

選者吟 日盛のしづけさだけが町にある 幹三

日ざかりへ人送り出す自動ドア

刈られたる草になほ濃き草いきれ

滝壺に入りたる水のやすらげり 暁子

日盛や今でなければならぬ用

むんむんと地球の匂ひ草いきれ

幹三 選

◎ 滝しぶき浴びて背中 of 荷の軽し

日盛りや山へ一本白き道

瀧裏に入れば礫となる光

◎ ずぶ濡れのシャツが自慢の水遊

草いきれ気になる開かぬ野小屋あり

滝壺に入りたる水のやすらげり

勢ひづき水滝壺に突き刺さる

◎ 瀧の音遠くにありて山暮るる

滝落ちる水の速さに音遅れ

◎ 少年と犬の知る道草いきれ

幼子のうぶ毛に光る滝しぶき

◎ 歓声が橋の下から水遊

岬なる終着駅や蟬時雨

野の道を辿れば重し草の息

滝しぶき日は七色を生み出せり

◎ ここよりはもう踏み込めぬ草いきれ

草いきれ塔の見ゆれば道半ば

日盛りや犬が昼寝の無人駅

ナイターの興奮持ちて帰りし子

安廣

乱

兵十郎

安廣

真知子

暁子

暁子

盛雄

暁子

乱

安廣

茉衣

遊子

安廣

暁子

太美子

輝子

恵子

かな子

滝の音に力漲り辿り着く

邦夫

草いきれ若さにまかせ抱き合ひぬ

乱

山帰り君のリュックの草いきれ

恵子

砂浴びをしてゐる鳩や日の盛り

太美子

転びてもころびても好き水遊び

太美子

山を裂き光も砕き瀑布落つ

瑛三

草刈りの音は彼方や草いきれ

堯子

◎ 日盛や犬にも小さき影のあり

輝子

むんむんと地球の匂ひ草いきれ

暁子

幹三 特選句講評

・ 滝しぶき浴びて背中 of 荷の軽し

安廣

滝のすぐそばを歩く道なんです。 「軽く思えた」より
一歩踏み込んで「軽い」と言い切ったところが、滝の涼感
に通じると思いました。 しぶきの句として面白い。

・ ずぶ濡れのシャツが自慢の水遊

安廣

「自慢」という措辞が水遊びをしている子供たちの様
子をよく伝えています。 水しぶきを上げて元気いっぱい
： 「水遊」の句はこう来なくては、と思いました。

・瀧の音遠くにありて山暮るる

盛雄

滝は近くで観察して詠まれることが多いですが、この句の作者は遠くにいます。遠くにいるからこそ滝の涼感がよく描かれました。広い景、静謐な時間です。

・少年と犬の知る道草いきれ

乱

少年と犬の関係、時間、場所、茂る夏草の様子など十七文字に多くの情報が入っています。読み手にも想像の世界が大きく与えられました。俳句の面目躍如です。

・歓声が橋の下から水遊

茉衣

先ず耳から入ってきた水遊びです。そこが面白い。きっと作者は橋の上から覗き込んだことでしょう。なんだか羨ましく思われたのではないでしょうか。

・ここよりはもう踏み込めぬ草いきれ

太美子

草いきれはにおいでであり熱気です。それがここよりは入れぬという雰囲気を出していると言うのです。強力な夏の草むらの表現です。

・日盛や犬にも小さき影のあり

輝子

猛烈な日ざしの中、ふと犬の影に気づいたところが俳人の目です。一生懸命歩いている犬の健気さも伝わります。出来れば犬の散歩は涼しい時間にしてやってください(笑)。

暁子 選

野の道を辿れば重し草の息
刈られたる草になほ濃き草いきれ
国破れ父も手に鋤草いきれ

安廣
幹三
乱

◎滝仰ぎ小さき事よと決意の日

恵子

日盛のしづけさだけが町にある
旧き友訪ふ墓地や草いきれ

幹三
安廣

滝の音遠くにありて山暮るる
草いきれ塔の見ゆれば道半ば

盛雄
輝子

山を裂き光も碎き瀑布落つ

瑛三

ほんたうは大人もしたき水遊

幹三

日盛りや山へ一本白き道

乱

爺婆も口出す隣家水遊び

翠

ナイアガラ表はアメリカ裏カナダ

朱美

白衣着て滝行の人今日もまた

輝子

女の子裾を捲つて水遊

邦夫

◎草いきれ真つ只中に釣の人

兵十郎

砂浴びをしてゐる鳩や日の盛り

太美子

◎潜る穴探し日盛京大路

翠

梅雨深し黒蝙蝠のやうな傘

幹三

銃重し野外教練草いきれ

瑛三

千切れてはまた膜となり作り瀧

兵十郎

神託の丘に蝙蝠飛び交ひぬ

遊子

◎知らせ受け看取りへ急ぐ日の盛り

眞知子

暁子 特選句講評

・滝仰ぎ小さき事よと決意の日

恵子

自然の雄大な姿を見れば人間の世界は何と矮小であるかと思わずにはいられない。迷つておられたことをえいつと決意された。その日のことを「決意の日」とされたのかと思うが、滝を見上げ、「今、決めた」とされる方がよいと思う。下五「決意する、決意せり」。俳句は「今、ここ」を切り取る。

・草いきれ真つ只中に釣の人

兵十郎

炎天下の川辺で釣をしている人であろうか。釣に夢中で草いきれも何のそのだ。

・潜る穴探し日盛京大路

翠

ちよつと立ち寄つて休む片陰もない京都の大路の日盛り。勿論潜る穴などないのだが、飛び込んで休める場を探し求める作者の気持ちや切。地上では暑さは防げず、潜る穴と言われたことによつて、ひんやりとした感じが得られる。

・知らせ受け看取りへ急ぐ日の盛り

眞知子

「看取り」は看病のこと。皆さんの共感を得た句。私も何度かこういう経験をしてきたが、今後は看取られる側になるだろう。

互選三句

朱美 選

旧き友訪ふ墓地や草いきれ

安廣

滝仰ぎ小さき事よと決意の日

恵子

滝しぶき日は七色を生み出せり

暁子

ナイアガラ滝の前に小さな虹がいくつも出ていたのを見た。

瑛三 選

岬なる終着駅や蝉時雨

遊子

山帰り君のリュックの草いきれ

恵子

日盛のしづけさだけが町にある

幹三

推理小説の書出しのような不気味な期待。

和江 選

日盛や今でなければならぬ用

暁子

放棄田にまだ力あり草いきれ

眞知子

野の道を辿れば重し草の息

安廣

「辿れば重し」から情景も実感も伝わってきます。

かな子 選

日盛や今でなければならぬ用

暁子

日盛のしづけさだけが町にある

幹三

日盛りの並木の日陰伝ひ行く

言成

日盛りを詠んだ3句にひとつのストーリーがある。

邦夫 選

瀧の音遠くにありて山暮るる

盛雄

放棄田にまだ力あり草いきれ

眞知子

爺婆も口出す隣家水遊び

翠

ミニプールで遊ぶ孫達に時々注意する隣家の祖父母。

恵子 選

山を裂き光も砕き瀑布落つ

瑛三

歓声や泣く子も出でて水遊び

かな子

日盛や今でなければならぬ用

暁子

暑い中よつぽどのご用、どんなことかしら？

言成 選

刈られたる草になほ濃き草いきれ

幹三

白衣着て滝行の人今日もまた

輝子

少年と犬の知る道草いきれ

乱

少年と犬だけが知っているのは特別の草いきれの所為。

堯子 選

国破れ父も手に鋤草いきれ

乱

滝しぶき日は七色を生み出せり

暁子

銃重し野外教練草いきれ

瑛三

実体験の句か？ 再びこの様な時代が来ぬことを祈る。

太美子 選

滝しづき日は七色を生み出せり
暁子
むんむんと地球の匂ひ草いきれ
暁子
日ざかりへ人送り出す自動ドア
幹三
視点を変えれば、こんなにいい句になるんですね。

輝子 選

怪談のみ寺の薨草いきれ
盛雄
日ざかりへ人送り出す自動ドア
幹三
草いきれ真つ只中に釣の人
兵十郎
暑い草いきれの川岸に魚をじっと待つ人がいる。暑い！

兵十郎 選

草いきれ一年分の香が迫る
朱美
日ざかりへ人送り出す自動ドア
幹三
日盛を歩荷の歩みゆるびなく
瑛三
高山でも日盛りは暑いが歩荷は止まらない。景が見える。

茉衣 選

草刈りの音は彼方や草いきれ
堯子
日盛りや犬が昼寝の無人駅
恵子
銃重し野外教練草いきれ
瑛三
TVのウクライナ兵士の映像にご自身の昔日が重なる。

眞知子 選

日盛のしづけさだけが町にある
幹三
日盛や今でなければならぬ用
暁子
むんむんと地球の匂ひ草いきれ
暁子
あたりに満ちる草いきれを地球の匂いとは、なるほど。

翠 選

日盛のしづけさだけが町にある
幹三
山を裂き光も碎き瀑布落つ
瑛三
日盛を歩荷の歩みゆるびなく
瑛三
昔、尾瀬高原でこのような光景に出会った。

盛雄 選

日盛や田んぼ青青風に揺る
邦夫
水遊子ら追ひかけて光散る
安廣
滝までの九十九折なる坂登る
遊子
リアルに日光のいろは坂から中禅寺湖への道か。

安廣 選

滝壺に入りたる水のやすらげり
暁子
日盛りに竈火入れて子ら待ちつ
和江
知らせ受け看取りへ急ぐ日の盛り
眞知子
日盛りの中を必死に急ぐ気持ちしが如実に表されている。

遊子 選

日ざかりへ人送り出す自動ドア 幹三
 山帰り君のリュックの草いきれ 恵子
 滝壺に入りたる水のやすらげり 暁子
 動と静の滝。人間の日常では体験しえない動・静の両極。

乱 選

唇の青くなりても水遊 輝子
 日ざかりへ人送り出す自動ドア 幹三
 山を裂き光も碎き瀑布落つ 瑛三
 落下する激しい滝を同じく激しい響きの語群で表した。

参加者自選句

水遊び笑い声までつやつやと	朱美
山を裂き光も碎き瀑布落つ	瑛三
日盛りに竈火入れて子ら待ちつ	和江
歓声や泣く子も出でて水遊び	かな子
日盛や田んぼ青青風に揺る	邦夫
日盛りや犬が昼寝の無人駅	恵子
草いきれナイスショットのあとに嗅ぐ	言成
朝顔の色水残る午後の庭	堯子
一滴よりの長き旅滝涼し	太美子
草いきれ塔の見ゆれば道半ば	輝子
水遊如露のシャワーの反射光	兵十郎
たそがれを闇夜に変へる雷雨かな	茉衣
知らせ受け看取りへ急ぐ日の盛り	眞知子
潜る穴探し日盛京大路	翠
夏木立芭蕉古跡の山登る	盛雄
幼子のうぶ毛に光る滝しづき	安廣
岬なる終着駅や蟬時雨	遊子
午後三時行く人もなき日盛りを	乱

即吟 「バナナとパイヤ」を詠む

今回は花ではなく、見事なバナナと。パイヤが登場しました。みんな、匂を嗅いだり、重さを確かめたりして即吟に挑みました。

パイヤとバナナ爆発句会場

暁子

朝食に欠かさず食ぶるバナナかな

邦夫

かいでみて押して感じるパイヤの

恵子

パイヤに遺伝子操作なく安堵

堯子

パイヤの辿りきし道しのぶ午後

輝子

ハワイよりパイヤ来たり句座騒ぐ

兵十郎

パイヤやはるばる来たる遠い国

茉衣

パイヤ熟れ大統領の交代す

幹三

比島遙かパイヤの味忘れたり

翠

パイヤのどつかり昼寝句座の卓

安廣

冷房の句座にフルーツ南国の

乱

ひとこと

山田安廣

暑い日が続いております。又最近はコロナの感染も増加傾向にあるとか、皆様方健康維持にはくれぐれもご留意下さい。

例会後、幹三さんから「句会は皆で作るもの。出来るだけ多くの方が発言して例会をより楽しいものにしよう！」という呼びかけがありました。是非そうしたいものですね。

又、漢字にルビを振るのは作者が「読者を信じていない」という事になる。或いは「（地名）にて」など注釈を付けられる場合もあるが、俳句はそれ自体でひとつの情緒を表現するもの。今後いずれも慎むよう留意されたい、とのご指摘がありました。